

6 News Letter

2021. May

動物の行動と管理学会

巻頭言 新会長挨拶

青山 真人 (宇都宮大学)

1年以上経過してもまだ続いているコロナ渦の中ですが、会員の皆様におかれましては、こんな状況でも元気でいらっしゃると思います。2021・2022年度の会長となりました青山真人です。

本学会は、日本家畜管理学会と応用動物行動学会が、2019年に統合して生まれた、まだ満2歳の学会です。一方で、前の二つの学会の歴史を背負う伝統ある学会でもあります。そのような学会の「二代目」会長となったことは、この上ない名誉だと考えております。一方で、これまでにない重圧を感じております。日本家畜管理学会・応用動物行動学会の歴代の会長(2015年度からは両学会会長を統一：初代統一会長は安江先生でした。2021年度は幹事を



お願いしております)。そして学会統合後の「初代」会長の矢用先生の能力を考えると、私では見劣りし、実は不安で脚が震えたこともありました。そして、本学会が社会において果たすべき役割の重要性が増していることも、会長としての責任の重さを感じる原因です。本学会が取り扱う事柄の大きな一つであるアニマルウェルフェアへの配慮は、産業動物、伴侶動物、実験動物、展示動物、野生動物というそれぞれの「立場」の動物において、ますます求められるようになってきました。アニマルウェルフェアという分野は、ややもすると間違った方向へ向かいやすい危険性を含んでいると思います。科学的な根拠を示し、議論をし、正しい知識を社会に提案するという、重要な役目が本学会にはあります。あるいは、野生動物との軋轢にかかわるニュースも最近特に耳にするようになりました。農業被害やヒトへの直接の被害だけでなく、豚熱(以前は豚コレラと呼ばれていた)や鳥インフルエンザなどの産業動物の伝染病を、野生動物が拡散する可能性も危惧されています。彼らの行動学的性質をよく理解し、どう管理するのか、これを考案するのも本学会の役割です。

一方で、これまでとはまた違った気概も感じています。前述のように本学会は二つの学会が統合して生まれたということもあって、それぞれの会員において、今の道に進んだ背景、所属する機関、扱う動物種、研究や活動の目的がお互いに異なることと思います(それが本学会の強みの一つだと、考えています)。しかし、何かを成し遂げなければならないときには団結し、それぞれの役割にある者がその務めをしっかりと果たし、全体として事がうまく進んで行った様子を、これまで何度も見てきました。会長になってまだ1~2か月ですが、すでに新たな役員の皆さんが「このコロナ渦の状況でもできる活動」について議論し、進めて下さっています。会員の皆様と何かを成し遂げることが、楽しみでもあります。

昨年度はコロナ渦のために、学会の重要な事業の一つである「情報交換」が不十分でした。まだこの状況は続いていますが、1年の経験により、この状況での立ち振る舞い方も分かって来ました。信頼の置ける4人の新大会理事を中心に、9月の研究発表会開催に向け、内容を検討しております。リモートですので、以前のように皆さんで「会う」ことは難しいですが、記念すべき大会になることは間違いありません。その日に皆さんと情報交換をし、議論をし、交流を深めることを楽しみにしています。

ちなみに、写真は、昨年度に私が実際に赴いた唯一の出張のときに、宿泊するホテルで撮影した「夕食」です。ご当地の酒と肴を堪能したいところでしたが、断念し、近くのドラッグストアで揃えました。このような状況を脱し、皆様と再び普通に飲める日が早く来ることを願って、あえてこの写真にさせていただきました。

報告 オンライン勉強会実施

勉強会「動物の情動について考える」御報告と御礼

戸澤 あきつ（帝京科学大学）

勉強会を主催いたしました戸澤です。多くの方のご協力のもと、昨年度予定しておりました勉強会を3月25日に1年越しで開催することができました。当初は会場にて皆様と顔を合わせながら実施する予定でしたが、新型コロナウイルス蔓延状況からオンラインでの実施となりました。

今回のテーマは「動物の情動」でした。私たち人間は動物と話すことができないので、動物自身の気持ちを直接知ることができません。そのため、生理的変化や行動を通じて客観的な側面から「情動」を理解しようとしません。しかし、「情動」といわれても皆さんは説明できるでしょうか。正確に理解できているでしょうか。そこで、勉強会では始めに「情動とはなにか」として、心理学と脳科学の2つの学問分野のなかでの「情動の理解」について説明し、動物の情動を評価する方法について紹介しました。続いて、今野晃嗣先生（帝京科学大学）に「イヌにおける『認知バイアス』の研究動向」というタイトルでお話いただきました。イヌの「認知バイアス」に関する研究レビューと、実験を実施する上で「ヒトの存在」といった注意しなければならないバイアスについて紹介



してくださいました。ご自身で「認知バイアス」に関する実験を実施した際の有用性と注意点についても動画とともに説明してくださいました。山梨裕美先生（京都市動物園、京都大学野生動物研究センター）には「チンパンジーのpositive emotionを引き出す新たな試みの紹介」というタイトルでお話いただきました。映像アーティストが作成した動画を京都市動物園のチンパンジーに見せることでどのような反応を示すか、というコラボレーション企画の実例を紹介してくださいました。映像に対して反応する個体と無反応な個体に明確に分かれることは興味深いものでした。今後、エンリッチメントツールのひとつとして動画利用の可能性について示してくださいました。

今回、オンラインでの実施方法としてはZoomを利用したリアルタイムでの配信だけでなく、Zoomの録画機能を利用して録画した動画についてURLを共有することによりオンデマンドでの配信も行いました。時節柄、卒業式等の行事が重なってしまったこともあり、リアルタイムには参加できないという学会員から「動画配信は行わないのか」と複数問い合わせがあったため、急きょ対応しました。学会員以外の方でも聴講できるようにGoogleフォームで事前に募集したところ、40名弱の方に申込みいただきました。リアルタイム配信では50名超の方に聴講いただくことができました。オンデマンド配信の再生回数は確認していませんが、数名の方から「オンデマンドを見た」といったご連絡や「オンデマンド配信動画を研究室内で共有しても良いか」といった問い合わせがあり、私たちが考えていた以上に反響がありました。コロナ禍によって人と会う機会は減少していますが、Zoomをはじめとする新たなツールを駆使して学ぶ機会や活発に議論する機会を今後も設けることができればと思います。

最後になりますが、勉強会という場を設けさせてくださった学会の皆様、リアルタイムでの参加あるいは動画を視聴してくださった皆様、そして御講演してくださった今野さま、山梨さまに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

オンライン勉強会 参加報告

徳永有輝(東海大学)

2021年3月25日にオンライン上で開催されました。動物の行動と管理学会主催の勉強会に参加致しましたので、報告いたします。今回の勉強会は「動物の情動に考える」というテーマで開催されました。帝京科学大学の戸澤先生からは「情動とは何か」という問いのもと、「情動」という概念の成り立ちや、情動の役割を考える重要性を説明していただきました。また、情動が動物に及ぼす影響や情動をどのように評価するかという点が整理されており、これからの研究活動でも情動という指標をより重要視する必要があると感じました。帝京科学大学の今野先生からは、『イヌにおける「認知バイアス」の研究動向』という題で講演が行われました。イヌの認知バイアスについての先行研究を整理した後、先生ご自身が判断バイアスの模擬実験をされたことが、とても印象に残っております。京都市動物園の山梨先生からは、「チンパンジーのpositive emotionを引き出す新たな試みの紹介」の講義をしていただきました。Positive emotionの効果を長期的なものにするためのエンリッチメントや、それを実現するために必要な要素について説明をいただき、実際にチンパンジーを対象にエンリッチメントを行った結果などを報告していただきました。今回、初めて学会の勉強会に参加させていただき、動物の「情動」という分野に対して興味を持つことができました。この勉強会で学んだことを生かし、学習や研究に励みたいと思います。

2021-2022年度役員の抱負

副会長 竹田 謙一 (信州大学)

今期、副会長を務めることになりました信州大学農学部竹田謙一です。もうお一方の副会長である加隈良枝先生とともに、青山会長を支え、本学会が会員にとって有意義な意見交換の場になると同時に、社会に向けて本学会、また、本学会が取り組んでいる学問領域を積極的に発信していきます。

本学会の特徴は(統合前の旧日本家畜管理学会、旧応用動物行動学会(そして古くは、それぞれ旧日本家畜管理研究会、旧家畜行動に関する小集会)でも同様に)、研究発表会後の休憩時間や懇親会の場で、所属機関の壁を越えて、発表内容に様々な助言を多くの先生方から頂けることです。他の学会でも同じことはありますが、特に本学会では、そのような光景を多く目にします。私も学生時代に、諸先生、諸先輩方から多くの助言をいただきました。コロナ禍において、これまでと同様の交流は難しい面もありますが、秋に開催される研究発表会では大いに議論しましょう！



副会長 加隈 良枝 (帝京科学大学)

新体制で副会長の一人を務めることとなりました、帝京科学大学の加隈です。現在は犬や猫などの伴侶動物を主な研究対象としており当学会では少数派ですが、世間ではペットと暮らす方たちは多く、家庭や産業における犬や猫の生活のあり方への関心は高く、今後ますます現場の課題に即した研究の推進や、市民による理解と協働が必要だと考えています。犬や猫の行動や飼育に関して研究してみたいことのある方ならどなたでも、ぜひご参加ください。当学会が行動学や動物福祉に関する正しい理解を広げていくことに、少しでも貢献できれば幸いです。

総務担当 八代田 真人 (岐阜大学)

旧学会(家畜管理学会)から数えて4期目の総務担当“も”仰せつかりました岐阜大学の八代田(やよた)と申します。担当が長期化すると、どこかの国の政権のように腐敗するか、慣れからくる緩みが生じますので、皆様お気をつけください。

さて、2019年3月に「動物の行動と管理学会」を設立したものの、その後はCOVID-19の影響もあって、研究発表会をはじめ十分な学会活動ができておりません。幸い大会担当理事の努力のおかげで、今年度はWeb開催ではあるものの学会大会の準備が着々と進められております。およそ2年間、研究発表ができなかったのも、皆さんの研究成果も外に出なくてウズウズしていることでしょう。奮ってご参加ください。なお、学会大会の開催に合わせて臨時総会も予定しております。学会開催時期の変更や今後の企画などに伴って、会則の変更も準備しておりますので、ご面倒ですが総会にも奮ってご参加ください。では、今期(で終わりのはず)もよろしくお願いいたします。



総務担当 松浦 晶央 (北里大学)

応用動物行動学会の時代から、10年間ほど会計の担当をしてきました。そのため、学会のお財布についてはたいいてい分かっているつもりですが、逆に言うと、それ以外についてはほとんど知りません。総務理事は学会の運営全体に関してなんでも対応する担当だと思しますので、これからは幅広い視野を持たねばと思っています。専門分野はウマのストレス応答や運動、動物介在療法などですが、これを機に研究についても他の動物種や分野などにも視野を広げ、より興味を持って取り組みたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



大会担当 新村 毅 (東京農工大学)

大会担当理事の新村です。大会運営全般のサポートをしつつ、主にシンポジウムを担当させていただきます。今度の大会のシンポジウムは、今まさに日本でも過度期に突入したと言える動物福祉をテーマとします。本学会の特徴でもある動物カテゴリーの枠組みを越えて、動物福祉とは何なのか？そんな純粋で深い疑問を、会員の皆さん、市民の皆さんと一緒に考えてるきっかけを作りたいと思っています。来年度は、もう少しがったテーマで、コロナにより中止になった動物とコンピューターのインタラクションの企画を復活させたいと密かに妄想中。学会の目玉企画であるシンポジウムを通じて、学会の目指すビジョンも示して行くことができればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします！



大会担当 加瀬 ちひろ (麻布大学)

昨年度も大会担当理事として「夏の学校」企画担当をしていましたが、残念ながら中止となってしまいました。ひとりの学会員としても大会の中止はとても寂しく、研究について熱く議論したかった気持ちのやりどころに困り、ぽっかり穴が空いたような状態でした。この悔しい思いを胸に、今年はオンライン開催という形で学会統合後の「初大会」が大いに盛り上がるよう、企画・運営に全身全霊で取り組みます！オンライン懇親会(オンライン飲み)の開催にも挑戦します！初めての形の大会で毎日ハラハラドキドキが止まりませんが、オンラインの良さを生かした大会になるように、と考えています。今回は発表なしの方も事前申し込みが必要です。学会HPより大会参加申し込みフォームにアクセスできますので、皆さん奮ってご参加ください。



大会担当 田辺 智樹（北海道総研酪農試験場）

本年度より大会担当理事を仰せつかりました道総研酪農試験場の田辺です。正直こんなに早く学会の理事を担当することになるとは思ってもいませんでした。幸い大会担当の他の3名の理事はみなさんとても心優しい（と思っている…）方々なので、その優しさに甘えつつも足を引っ張らぬように大会担当として貢献できるように精一杯頑張りたいと思います。

現在、大会担当一同で今年の年次大会に向けて準備を進めております。オンライン開催という形ではありますが、発表、シンポジウムに加えて若手研究者向けの夏の学校も企画しております。みなさま奮ってご参加ください。どうぞよろしくお願いいたします。



大会担当 リングホーファー 萌奈美（京都大学）

この度大会担当理事に就任いたしました、リングホーファーと申します。私はウマを対象に、飼育下・野生下環境において認知能力や行動の研究をしています。研究では特に、ヒトの協力的社会を特徴づける「他者への理解」と「他者との行動調整」といった能力に着目しています。このような能力は、多くのヒトが関わりあう大会運営にも不可欠です。研究のみならず本業務でも、この2つを重視して活動していこうと思っております。なにかと不慣れではございますが、会員の皆さまや理事の先輩方にお力添えいただきながら、より良い大会運営を目指して尽力させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

会計担当 多田 慎吾（農研機構北農研）

会計理事を担当します多田です。昨年度まで一緒に会計でした松浦先生が総務理事に移られ責任が増しましたが、会計理事の二宮先生と協力してしっかり努めたいと思います。会員の皆様におかれましてはいつも会費の納入にご協力いただきありがとうございます。会費は学会誌発行をはじめ、本学会では久しぶりの開催となる秋の大会の各企画の他、本学会の特色である若手支援に活用されます。本学会では各先生方が（本来の仕事も沢山あるにも関わらず）大変熱心にこれら学会業務に取り組んでおられますので、ぜひご期待ください。



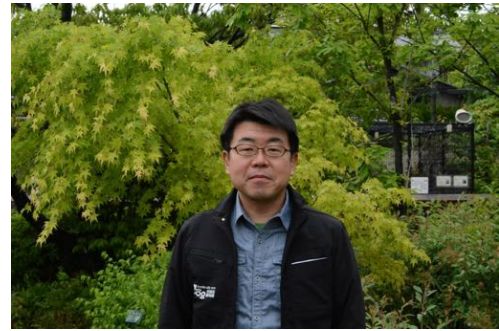
会計担当 二宮 茂（岐阜大学）

この度、会計理事を担当することになりました、岐阜大学の二宮と申します。応用動物行動学会時代も含め丸9年間！務めていた国際連携からの担当変更です。

この学会は比較的小さい規模ながら、ヒトと係わる様々な動物を研究する方々が集まっています。これら会員による活発な研究活動の場となるよう学会の事業を実施するには、先立つものがなければ、どうしようもありません。学会の会計管理を堅実に行うことにより、貢献できればと思います。引き続きよろしくお願いいたします！

編集担当 田中 正之（京都市動物園）

今年度から、編集理事として、Animal Behaviour and Management (ABM) の編集委員長を、前任の河合先生から引き継ぎました。動物の行動と管理学会としては、2代目の編集委員長となります。現在のABM誌の課題は、投稿数が少ないことと、投稿される分野に偏りがあることです。ABMがカバーするのは、産業動物、伴侶動物、実験動物、展示動物、野生動物の研究で、要するにほとんどすべての動物をカバーします。論文の種類も、原著や短報だけでなく、総説や解説、資料的価値のある報告も歓迎します。あまり分野や論文の種類にこだわらずに、面白い発見があればとりあえず論文にまとめてみてはいかがでしょうか。皆様からの投稿をお待ちしています。



編集担当 新宮 裕子（北海道総研酪農試験場）

今年から編集理事を担当することになりました。淡々と編集作業をすればよいかと思っていたら、就任早々、青山会長より学会誌に掲載される論文数を増やすよう指示が来ており、淡々と・・・という分けにはいかないようです。Animal Behaviour and Management (ABM) は1年間で4回発行することになっていますが、すでにネタが尽きかかっており、現段階では4回無事に発行できるのか？という状況です。ABMでは、原著論文のほかにも、資料や書評なども受け付けています。特に資料は、学術性よりも「ヒトと係わる動物の飼育・管理に従事する者に対する有益な情報」提供することを重視していますので、投稿してください。

北海道にも春が来ました。一緒に、コロナも来たよ。



広報担当 伊藤 秀一（東海大学）

今回もネットワークの維持を中心とした業務を担当します伊藤です。応用動物行動学会と家畜管理学会の頃から数えると、すでに15年以上にわたり・・・馬鹿のひとつ覚え・・・と言うヤツですが、よろしく願います。この学会が形を変えてきたように、会員や社会への情報発信の方法も、紙ベースからWebベースへと大きく変わってきました。今後、ずーっとインターネットが情報発信の主流になるのか？もしくは、別の媒体が生まれるのか？いつか私から直接皆さんの脳へと何かが送られるのか？想像するだけで怖くなってきますが（どちらにしても変化について行くのに精一杯・・・というか、そろそろ無理・・・）、重要なのはその内容であることに変わりはないことでしょう。HP等の運営は広報担当理事で行いますが、情報発信の内容については、会員の皆様のお力を頂けなければいけません。皆様のご協力をお願いします。



広報担当 小倉 匡俊（北里大学）

引き続き広報担当を務めます北里大学獣医学部の小倉です。コロナ禍によりさまざまな場面でのオンライン化が進みました。会議やミーティングのリモート化、SNSの活用などが一般的になっています。その中で広報担当理事の貢献できる部分も増えているのかな、と感じています。同じ広報担当の伊藤先生、ニュースレター担当の萩原先生、その他の皆さまとも協力しながら役務を全うしてまいります。広報関係で何かアイデアがありましたら、ぜひお知らせください。



庶務担当 小針 大助（茨城大学）

本年度からも引き続き庶務理事を担当いたします、茨城大の小針と申します。主に会員の皆様の入退会手続きを麻布大学の塚田先生とともに担当させていただきます。今年度は秋に久しぶりに学会大会が開催されますが、本学会は動物に関わる様々な分野にまたがり議論ができるとともに、規模がそんなに大きくないことから、お互いの顔が見え、学生さんにとっても発表しやすい学会かと思います。特に学生の皆さんには会員となってお参加いただき、学会を盛り上げていただければと思います！もちろん動物に関連する分野でお仕事をされている社会人の皆様も大歓迎です！



庶務担当 塚田 英晴（麻布大学）

本年度から東北大学の深澤先生に代わって庶務担当理事に就任しました、麻布大学の塚田です。現理事である茨城大学の小針先生と協力して会員の皆さんの名簿管理などをおこない、私の方は主に新たに入会される方たちのお手伝いを担当させていただきます。よろしくお願いいたします。このニュースレターをご覧になっているのは既に会員になっている方たちが多いと思いますが、お知り合いの方で本学会に興味をもたれた方を是非とも本会へお誘いください！入会時には現会員の推薦が必要となります。お知り合いの入会時には、推薦人となり、会員拡大にご協力いただければ幸いです。なお、入会手続きの詳細についてはHPをご連絡ください。

国際連携担当 深澤 充（東北大学）

新しく国際担当理事を拝命いたしました東北大学の深澤です。ISAEの地域担当も担当することになりますが、なけなしの英語力とDeepL翻訳を駆使して役目を果たしたいと思いますので、御協力をお願いいたします。当学会では、若手会員の国際的な活躍を後押しするために国際学会参加助成を行っております。コロナ禍のため国際会議への参加が難しい状況ではありますが、助成をご活用頂き、積極的に参加して頂けますと幸いです。詳細はHPをご覧ください。2年間よろしくお願いいたします。



国際連携担当 山梨 裕美（京都市動物園）

このたび、国際連携理事になりました山梨です。深澤先生とともに、国際学会との連携などについて頑張っていきたいと思っています！今年も8月にISAEのオンライン大会があります。わたしもポスター発表で参加する予定です。いろいろな方の発表を聞いたり、意見交換できたりすることが楽しみです。しばらく実際に海外に行って現地の食や空気を味わうことが難しそうなのはさみしいですが、オンラインになって国際会議やセミナーに気軽に参加しやすくなった部分もあると思います。こうした利点をうまく活かしながら、活動していければと思います。

動物の行動と管理学会2021年度大会について

加瀬 ちひろ(麻布大学)

今年、学会が統合してから初めての大会を下記の日程にてオンライン開催する予定です。
また、大会に併せて夏の学校を開催します。

夏の学校、学会参加(発表なしも含む)、公開シンポジウムへのWeb申し込みを開始しますので、下記事項を参照の上、奮って御参加下さい。

学会参加のみの場合も事前申し込みが必要となりますのでご注意ください。

申し込み締め切りは、2021年8月31日(発表申し込みの締め切りは6月10日を予定)とします。

申し込み後、申し込み内容の自動返信がありますので、Google formからのメールが受け取れる設定にしておいて頂くようお願い致します。

自動返信がない場合は、担当者まで御連絡下さい。なお、上限に達した企画については、その時点で申し込みを締め切りますので、御了承下さい。

一般講演は口頭発表のみとなります。懇親会のWeb申し込みは、後日行います。
夏の学校・公開シンポジウムの内容に関しては決定次第、追ってご連絡いたします。

【日程】

2021年9月8日(水)～10日(金)

① 9月8日(水):夏の学校

参加費:無料

参加申し込み期間:5月9日～8月31日

申し込みフォーム:

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdYEiNETju77oB1r80I4kEZ8eoQYQeIRoE_8SGQ8DC2jE88_A/viewform?usp=sf_link

参加者:30名程度まで(本企画は学生や若手研究者を対象としています)

◇タイムスケジュール

13:30～14:30 技術レクチャー(前半)

13:30～14:40 休憩

14:40～15:40 技術レクチャー(後半)

15:40～16:00 休憩

16:00～18:00 グループディスカッション

◇技術レクチャー

演 者:農研機構北農研・多田慎吾

講演内容:「動物の行動研究にあたっての統計解析と機械学習の基礎」

・演者の講演に加えて、例題の解析をする「演習」も実施

・参加者には事前に統計ソフトRをインストール&予習(2～3問)をしていただく予定

◇グループディスカッション

・zoomのブレイクアウトセッションでグループ分け(7～8名)

・参加者同士で研究紹介を行い、自分の抱える課題などについてディスカッション

② 9月9日(木)～9月10日(金):学術大会(公開シンポジウム、口頭発表、評議員会、総会、懇親会)

◆学術大会(9月9日～9月10日)

大会参加費:無料

大会参加申し込み期間:5月9日～8月31日(**発表申し込み〆切 6月10日、要旨〆切 6月30日**)

申し込みフォーム:

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfUKz-a8W1lgDfhbXjPQfCCEjwQx9mC1bvF1tZ7cbbonKZY6g/viewform?usp=sf_link

参加者:250名まで(定員になり次第参加申し込みを締め切ります)

◆公開シンポジウム(9月9日)

参加申し込み期間:6月15日～8月31日

申し込みフォーム:

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeCNuAviDGIONIvw6MV5WboPFUFbNIMmMui5QBgElSsGGPIDg/viewform?usp=sf_link

参加者:250名まで(定員になり次第参加申し込みを締め切ります)

◇シンポジウムテーマ:アニマルウェルフェアとは何か?

◇講演者

- ・アニマルウェルフェア概論:農研機構・矢用健一
- ・産業動物:信州大学・竹田謙一
- ・伴侶動物:帝京科学大学・加隈良枝
- ・動物園動物:東海大学・伊藤秀一
- ・野生動物:農研機構・平田滋樹

研究発表会申し込み要領

1)発表申し込み

発表者は、統合後の「動物の行動と管理学会」の会員の方に限ります。必ず2021年度会費を支払いの上、申し込みしてください。なお、発表申し込みの際には、①口頭発表(優秀発表賞エントリー)、②口頭発表(優秀発表賞エントリーなし)、の2つからの選択となります。優秀発表賞は学生を対象としています(詳細は下記)。

2)講演要旨の作成

発表用の要旨作成依頼および発表資料の送付依頼は、申し込み期間終了後、発表者にお知らせするとともに、本学会のWebページに公開します。要旨締め切りは、6月30日を予定しています。申し込み締め切りから要旨提出締め切りまでのスケジュールが少しタイトですので、あらかじめ要旨の作成を進めて頂ければ幸いです。要旨については、例年通りA4サイズ1枚で作成してください。講演要旨作成要領は学会HPからダウンロードできます。

【重要】動物の行動と管理学会(以下、本会とする)は、特許法の規定による「特許庁長官が指定する学術団体」の指定を受けておりません。したがって、特許出願前に、本会が主催する研究発表によって、日本国内において公然と知られた発明の場合には、特許を受けることができません。特許申請をお考えの発表者におかれましては、十分、お気をつけくださいますようお願い致します。

3)発表方法

発表資料の送付依頼も、申し込み期間終了後、発表者にお知らせするとともに、本学会のWebページに公開します。口頭発表については、スライドをオンライン上で画面共有する方法により実施します。スライドは、あらかじめ提出して頂くこととし、提出締め切りは8月31日を予定しています。

4) 優秀発表表彰

学生(大学院生含む)を対象とした優秀発表表彰を行います。優秀発表表彰は、口頭発表に限定します。優秀発表表彰を希望される方は、Web申し込みの際、「口頭発表(優秀発表賞エントリー)」を選択して下さい。受賞者の発表は後日、学会のホームページ、ニュースレターで発表を行います。

5) その他

現在、非学会員で研究発表会へ参加を希望される方は、事前に「動物の行動と管理学会」に入会し、2021年度会費(一般・学生会員:4,000円; 法人会員:12,000円以上(1口4,000円×3口以上))の納入をお願い致します。なお、シンポジウムへの参加は、非学会員の方でも可能です。

年会費納入のお願い

多田 慎吾(農研機構北農研)

2月までの前納をお願いしておりました2021年度の会費納入率は、4月時点で7割程度に留まっています。会費納入は、随時受け付けておりますので、ご都合よい時にご対応いただけますと幸いです。

【年会費】

一般会員・学生会員: 4,000円

法人会員: 12,000円以上 (1口4,000円×3口以上)

【振込口座】

口座記号番号: 02220-0-143309

口座名称: 動物の行動と管理学会 (ドウブツノコウドウトカンリガツカイ)

(ゆうちょ銀行へ送金の場合)

店名: 二二九 (ニニキュウ)

店番: 229

預金種目: 当座

口座番号: 0143309

編集後記

萩原 慎太郎
(福山市立動物園)



この度、広報委員(ニュースレター担当)になりました福山市立動物園の萩原です。私は、ボルネオゾウやネコ科動物の飼育担当の傍ら、標本管理、企画展示、教育、広報とオールマイティーに動物園での業務を行っております!と言いたところですが、それぞれ中途半端にしかできておらず、二兎追うものは一兎も得ず状態です。また、研究のほうも…。動物園は、研究のフィールドとしての役割もあると思いますので、何かお手伝いできることがあれば、ご一報ください。さて、前任の林先生より担当を引き継ぎ、多くの方々のご協力のもと、今回なんとかニュースレターを発刊することができました。皆さま、ありがとうございました。思っていたよりも編集に手間取り、発刊が遅れ申し訳ありませんでした。今後は、スムーズに発刊できるように頑張りたいと思います。